

平成 28 年度 学校評価報告書（目標設定 **実施結果**）

神奈川県立藤沢総合高等学校

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月15日実施)	総合評価(3月29日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒の学習意欲を高め、進路実現を図る Semester 制の教育課程編成と組織的な授業改善に取り組む。 ②課題研究等を見直し、課題解決力や表現力を高める探究活動の充実を図る。	① Semester 制に基づく平成29年度入学生教育課程を編成し円滑な導入を図る。アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業の教員研修を開催し、教員が主体的に取り組む。	①生徒のニーズや進路希望を調査し、年次進行型 Semester 制教育課程の原案を完成し、移行期における校内体制を整える。アクティブ・ラーニング等の授業改善に係る校内研修を企画し、職員等の理解を深め、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実践する。	①生徒の多様な進路実現を図る年次進行型 Semester 制教育課程の原案ができ、導入準備ができたか。授業改善に係る校内研修を開催し、職員の理解が深まり、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業が広まったか。	①平成29年度入学生の教育課程表は、ほぼ完成したが Semester 制に係る教育課程については、更に精査する必要がある、移行期における校内体制についても検討を加える必要がある。産業能率大学小林教授によるアクティブ・ラーニングの研修会を行い、具体的な方法を伝えていただいたことにより個々の意識が高まり、授業改善に取り組む契機となった。	①現行生徒の履修登録の調整に時間が取られているため、平成29年度入学生の1年次の教育課程表は完成しているが、2年次以降の教育課程について精査する必要がある。教員相互で授業見学としての研究授業の回数が少ないことから今後、機会を増やしたい。教科・系列単位で、非常勤講師も含め主体的に授業改善に取り組む雰囲気を醸成する必要がある。	①年次進行型 Semester 制教育課程案として導入準備はできている。これからは、教員間の意志の疎通を十分図る必要がある。さらに、生徒に「選択」の意味を十分理解させる手だてが必要である。 ・アクティブ・ラーニング型授業を進めることに対して、学校で方向を定めまず一歩を踏み出したことは意義あることである。研修などによって、教員間の相互認識を深めるとともに、アクティブ・ラーニングの導入目的やそのねらいを生徒にも十分に説明し理解させることも必要である。	①学校内外の状況を踏まえ、年次進行型 Semester 制教育課程の原案を作成することができた。最終的な教育課程作成のため、調整を進める必要がある。 ・授業改善に係る校内研修を開催し、職員の理解を深めることができた。今後、さらに組織的にアクティブ・ラーニングを取り入れた授業実践を進めていく必要がある。	①平成29年度入学生の2年次以降の教育課程について精査する。 ・教員がお互いに授業見学し、研究授業を行う回数を増やす。 ・ Semester 制による教育課程やアクティブ・ラーニングを取り入れた授業について生徒や保護者に説明し理解を深める。
2 生徒指導 ・支援	①部活動を活性化させ、生徒の責任感や協働力の涵養を図る。 ②専門家と連携し、生徒の社会的自立を促す、きめ細やかな生徒指導・支援の充実を図る。	②スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと円滑に連携し、生徒理解を深め、組織的な生徒支援を図る。	②スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの支援体制を整え、生徒情報を共有し、適切なケース会議の開催など組織的な生徒支援を進める。	②スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの支援体制を整え、生徒情報の共有とケース会議を円滑に行い、生徒支援につながったか。	②教育相談コーディネーター及び養護教諭が中心となり学校全体の支援体制を整え、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し組織的に生徒支援を行った。日頃の情報交換に加え、コーディネーター会議やケース会議を行い、職員間の共通理解を図った。本人、保護者、担任からの相談を積極的に受け、他機関への紹介も含め適切な支援を行った。	②本校は今年度からスクールソーシャルワーカーの拠点校となった。導入されて日が浅いため、仕事内容について十分に職員の理解が得られているとは言えない。今後活用のあり方について整備する必要がある。	②組織的な取組がなされている。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、担当教員の役割を整理し、より効果あるチームサポートの形ができるとよい。 ・生徒支援の効果をあげるためには、教員間の情報共有が重要であり、生徒支援の在り方を共通理解する場をより多く設けてはどうか。 ・生徒が自分たちでよりよい学校を考えていくという自主性を伸ばし、教職員がそれを見守るといふ、ある程度自由な校風も必要である。	②教育相談コーディネーター及び養護教諭が中心となり学校全体の支援体制を整え、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、組織的な生徒支援を進めることができた。 ・スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーのそれぞれの役割と活用方法を整理するとともに、拠点校として発信し他校でも効果的にチームサポート体制に貢献する。	②スクールソーシャルワーカーの仕事内容について職員の理解をさらに深め、活用のあり方について整備する。 ・スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの拠点校として、地区教育相談コーディネーター会議等を活用し、情報共有する。
3 進路指導 ・支援	生徒が主体的に進路を考え、実現に向けて必要な能力と態度を育む指導・支援の充実を図る。	外部教育力の活用を促進し、個に応じたガイダンスの充実を図る。	外部試験の広報を積極的に行い、受験者を募り、インターンシップは、事前事後指導を徹底して学習効果を高める。	外部試験受験者を昨年度以上に増やすとともに、インターンシップの生徒の取組状況を改善し、成果が分かる報告会を開催できたか。	・外部試験については、日ごろよりHR等においてその必要性等を指導した。また募集の期間を延ばす等の工夫をして受験数を若干ではあるが増えた。2年次については、より高いレベルのテストを受験させ、来年に向けて意識の高揚を図った。 ・インターンシップについては、昨年度の反省から事前指導の内容を工夫して実施した。体験した生徒数は昨年よりも減少したが、実施期間中はもちろんのこと事後指導も滞りなく終了した。	・外部試験は引き続き、校内で受験させ意識の高揚と進路実現に向け学力レベルを向上させたい。 ・インターンシップについては、来年度以降も今年度同様に、事前指導の内容を工夫して、以後の実習や事後指導の充実を図りたい。	・生徒一人ひとりの進路実現に向けて、学校をあげて努力している。 ・インターンシップは事前・事後教育が大変重要である。目的を明確にし、学んだことを整理し次に生かすため、事前・事後に記入する定型のシートを作り、教員と生徒が対話するとさらに効果的ではないか。 ・教育効果があげられるか否かはインターンシップ先と高校の信頼関係にかかっている。全教員が分担してインターンシップ先と連携、情報共有するような仕組みを作るとよい。	・外部試験の広報を積極的に行い受験者が増え、より高いレベルのテストの受験により意識の高揚を図ることができた。引き続き意識をさらに高めていくことが必要である。 ・インターンシップは、事前事後指導を徹底して学習効果を高めることができた。生徒の取組状況改善と参加人数増加の両方を同時に図ることが課題である。	・外部試験の校内実施を続けるとともに、現在全生徒が実施している校内試験をワンランク高いものに変更し、生徒の進路実現に係る意識と学力の向上を図る。 ・インターンシップの事前指導の内容を工夫し、実習や事後指導の充実を図るとともに、参加人数の増加を図る。

視 点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取 組 の 内 容		校 内 評 価		学校関係者評価 (3月15日実施)	総合評価 (3月29日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4 地域等との協働	地域との交流や協働を深め、信頼され開かれた学校づくりを推進する。	地域や保護者と円滑に連携し、地域教育力を積極的に活用する。	P T A と地域、学校の三者が連携し、生徒の学習活動を支援する取組を実践し、教育成果を広報する。	地区 P T A 大会で三者連携の取組を発表し、地域に教育成果を広報することができたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>コスモスの栽培を通して、P T A、地域の方々、生徒(学校)との連携を深めることができた。また、その取り組みについて、P T A 地区大会での発表や広報誌、「学校へ行こう週間」で開催する「コスモスのつどい」にて教育効果を広報することができた。</li> <li>吹奏楽部、軽音楽部、ダブルダッチ部が地域の催しに演奏参加した。ダンス部が地域小学校にてダンスレッスン開催予定である。文化祭では本校通学者出身中学と、周辺の中学に学校案内等を配布した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コスモス栽培の日程調整や生徒や職員のかかわり方(学校行事との関係)についてさらに検討が必要であり、年間行事予定にコスモス関連の日程を入れる等の改善案が考えられる。</li> <li>近隣を含め、中学校との交流会(合同練習会や発表会等)を定期的に行うと、地域交流に一層役立つと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コスモスの栽培や学校や長後駅周辺の美化・環境維持活動、長後共育フォーラムの行事への参加など、様々な活動を通し地域に活動の場を求め貢献している。地域等との協働についての取組は、十分評価できる活動となっている。地域からの信頼を得るだけでなく教育的な効果も高い。</li> <li>P T A 地区大会の発表では、学校が地域に見守られていることがよく伝えられた。これまで以上に、あらゆる手段・機会を使って P R をするとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>P T A と地域、学校の三者が連携し、生徒の学習活動を支援する取組を実践し、教育成果を広報することができた。</li> <li>部活動の生徒などが地域や小学校などの催しに参加し連携を深めることができた。</li> <li>コスモスの栽培を通して、P T A、地域、生徒、学校の連携を深めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域行事への参加や交流、小中学校との交流会や発表会、合同練習会などを積極的に行い、地域交流、連携をさらに深める。</li> <li>来年度、県教育委員会より指定された「コミュニティ・スクール」に地域協働事業を組み入れ、充実と発展を図る。</li> </ul>
5 学校管理 学校運営	職員の教育力や事故・不祥事防止に係る取組を効果的に実施し、協働意欲と組織力の向上を図る。	職員のスキルアップや事故・不祥事防止に係る研修を計画的・効果的に実施する。	校内の教員研修を5回以上開催し、教員の意欲と教育力を高める。	研修会の出席率及びアンケート結果等により、研修効果がみられるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育力向上のため外部講師を招き、ペップトーク、人権教育、アクティブ・ラーニングの研修会を全職員対象に行い、職員が意欲的に取り組み、研修目的を十分に達成することができた。</li> <li>経験年数5年未満の職員を対象とした「教師力向上研修会」を様々なテーマで3回開催し、意欲と教育力を高めた。</li> <li>不祥事防止研修を全職員対象に毎月実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会当日及びその後の研修効果を適切に把握するためのアンケート等の工夫が課題である。職員対象、生徒対象のアンケート等の検討を行う。</li> <li>学校内外の状況を見極め、職員にどのような研修が必要か、職員がどのような研修を希望しているかを十分に考慮し研修計画を立てる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「教師力向上研修会」はよい試みである。レクチャー後にグループディスカッションで話し合う形式は効果的である。</li> <li>学校管理・運営や教員の教育力を向上させるため、研修会や講演会などを多く開催し努力をしており、大いに評価できる。</li> <li>研修成果を十分あげるには、研修会や講演会後に議論の場を設けることが望ましい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育力向上のため多様な内容の研修会を全職員対象に実施し、職員が意欲的に取り組み、研修目的を果たすことができた。</li> <li>教師力を向上させ本校の教育活動に有効的な研修や職員のニーズと踏まえた研修を企画し実践する必要がある。</li> <li>事故・不祥事防止に係る取組を継続して行い、事故・不祥事発生を未然に防ぐことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修後に成果を共有し課題を話し合う場の設定やアンケート調査の実施など、研修後の取組を工夫し、研修成果の把握と職員の共通理解を深め、その後の教育実践や研修計画に生かす。</li> <li>職員が主体となって行っている事故・不祥事防止研修を今後も継続して行う。</li> </ul>